



夢に生きたん

Takeokadai High School
進路指導部 第 2 号
発行日 H29. 5. 11 (木)

「中間考査 間近！！」～学ぶことの意義～

新学年になってから1か月が経ちました。1日遠足や錦武戦などで、さらに親交も深まったことでしょう。これからはいよいよ学習に部活動に、より一層の取り組みが望めます。**中間考査**が、**5月15日から17日まで**3日間行われます。そのあとは、高校総体がやってきます。武台生として、文武両道の精神を貫きましょう。

ところで、皆さんは何を目標に学んでいますか？試験のためだけの勉強で学んでも、覚えたことはあっさりと忘れてしまいます。しかし、「自分の頭で筋道を立てて考える」ことによって得た知識は忘れません。実際、生きていく上で物事の本質を問わねばならない時には、「自分の頭で筋道を立てて考える」能力がなければなりません。今は様々な教科や学校生活における人との関わりを通じて、この能力を育てていると考えてください。そうすれば、叱られても素直な心で、受け止められるはずです。そして、卒業までに「生きる力」を身につけることができると思います。

さて、皆さんはどのような意識・意欲で勉強に臨んでいるのでしょうか？



「AO入試、推薦入試とは？」～「^{アルファ}+α」を評価してもらえるチャンス！

皆さんは、センター試験や国公立個別試験を乗り越えられるための学力をつけられるよう、日々の授業や学習に取り組んでいかなければなりません。「大学全入時代」と言われることもあります。武台生の大半が目指す国公立大学においては相変わらず倍率は高いと言わざるを得ません。

大学入試には、「一発勝負」である一般入試とは別に、「AO入試」と「推薦入試」があります。受験資格・条件は各大学によって異なりますが、大まかに言えば、「学力+α」を評価してもらえる受験です。国公立大の「AO」と「推薦」、二つの入試システムについて簡単に示します。

	AO入試	推薦入試
評価内容	各大学の「アドミッション・ポリシー（求める学生像）」に適合しているか。	一般入試と違い、学習状況や課外活動など日頃の努力を評価する。
求められるもの	学力だけでなく、「その大学で学びたい」という受験生の意欲や熱意。高校での実績。	評定平均値に基準があることが多い（＝学力が要求される）。
学校長の推薦	原則不要。	必要。（校内の推薦委員会で審議。）
選抜方法	志望理由書・調査書・小論文・面接が多いが大学によって様々である。	書類審査（推薦書・志望理由書・調査書など）・小論文・面接・口頭試問が主体。
出願時期	8月～10月でかなり早く、試験実施日が異なるので複数受験が可能である。	10月～。センター試験を課す場合があり、その場合推薦入試は2月頃行われる。
その他	AO入試に不合格の場合、推薦入試に挑戦することもできる。	国公立の推薦は一回しか受験できない。

※AO入試、推薦入試の内容は、国公立大か私立大かによっても異なります。

「評定平均値?」「+αって?」～早いうちから知っておきたい入試の知識

〔評定平均値とは?〕

「評定」とは、定期考査の結果や授業態度、課題の提出状況などをもとに総合的に評価したもので、通知表に載っている「5・4・3・2・1」のことです。

1年次から3年次のすべての科目の評定の合計数をすべての科目数で割って、小数点以下第2位を四捨五入して求めた数値が3年間の「評定平均値」となります。3年生の場合は1学期末に出される仮評定が使用され、出願時に提出する「調査書」に記載されます。この調査書は一般入試を含む、すべての受験で必要な書類です。

A	5.0 ~ 4.3
B	4.2 ~ 3.5
C	3.4 ~ 2.7
D	2.6 ~ 1.9
E	1.8 ~

また、評定平均値は左記のように A~E の5段階で成績概評として示されます。

AO入試や推薦入試の出願条件として、成績概評 A 以上を求める大学も少なくありません。学校長が特に優れていると認めた場合は⓪をつけることができますが、その⓪を条件とする大学もあります。

評定は上記の通り、定期考査の結果や授業・課題の取り組み状況がもとになります。言わば「毎日の積み重ね」の証です。気を抜いてもよいテスト、適当にやってもよい課題なんて一つもないのだ!ということを中心に留めて、毎日の学習に励み、1回1回の考査を大事にしましょう。だから、新年度スタートの中間考査がいかに大切であるか自然とわかってくるはずですよ。

〔「+α」って何だろう?〕

AO入試や推薦入試では、受験生の学力だけでなく、それ以外の部分(+α)を評価し、合否の判断材料としています。その時に重視されるのが先にも述べた「調査書」です。

調査書には、その生徒がどういう学校生活を送ってきたかが分かるよう、成績以外にも出欠状況、特別活動の記録などが細かく記載されます。部活動や生徒会活動、検定の取得など、様々なことに取り組むほど、記載内容は増えることになります。逆に、特に何も取り組んでいなければ、調査書に何も書き込めず、空欄のままとなります。AOや推薦では、調査書の内容をそのまま点数化したり、面接時の参考資料としたりするので、調査書の記載が豊富な受験生ほど有利になるというわけです。

学力以外として、以下のようなことが挙げられます。

- 部活動での実績
- 生徒会活動（執行委員、専門委員会など）
- 校外のコンクール・コンテスト等の入賞実績
- 継続的なボランティア活動
- 「TK タイム」などで取り組んだ課題研究やそのレポート
- 高校時代に取得した検定・資格（英検や漢検、全商検定など）
- インターンシップや国際交流などの諸活動
- . . .



調査書は、後からの書き換えなどはできません。1学年のうちから充実した高校生活を送ることが、そのまま調査書の充実につながるのです。

「当たり前前の方が出来る人に！」

入試に有利になるよう、「+α」に努めることの必要性を述べてきましたが、その前に自分は当たり前前の方をきちんとできるか、またそれを継続できているか、を自問自答してみてください。例えば、遅刻・欠席をしない、課題の期限を守る、清掃をしっかりとやる…など。とにかく、自分でできることを頑張ってみてください。日常の当たり前前の方がこなせているかどうか、その人がどんな人かを判断し、評価をする上での大きな基準になりますから……。